

## 受診控えで糖尿病が悪化

70代の男性の相談を受けました。「物価高騰で電気代は3倍、家賃も滞納続きで、生活保護を利用したい。この歳で警備員仕事の収入だけでは生活が苦しく、2年来通院していない。そのため糖尿病が進行し、今は両足親指が黒くなって、下肢にコブができ、シミもある」という内容でした。就寝時に心臓付近が痛むことがあるとの話もあり、仕事は辞めて治療に専念すべきと判断しました。その日のうちに生活福祉課に同行することにしました。

この時点で、まだ収入があるため申請はしなかったのですが、生活保護課の窓口担当者から医療面での心配など、丁寧な聞き取りを行ってもらい、後日、申請手続きをすることとしました。

今、改めて思うのですが、糖尿病は静かに進行します。気づかないうちに血行障害を起こし、脳梗塞や心筋梗塞を発症する恐ろしい病気です。健康診断をおろそかにしないことと、行政が医療体制を拡充し、啓発することが必要です。そして、いつでも医療費の心配をせずに受診できる政治に変える必要があると、つくづく思いました。



### ばばひろしからの報告（宣伝活動をして思うこと①）

#### 三つのゼロを国の少子化対策のスタンダード政策に

年明け通常国会前に岸田首相は突然「異次元の少子化対策」を言い出しました。少子化対策が喫緊の課題であることについては異論はありません。ぜひ進めてもらいたいところです。でも、通常国会の所信表明演説を聞いても、具体的内容はまだこれからというところでは。



それならば日本共産党が埼玉県議選で打ち出している「三つのゼロ」を具体策として国が進める「少子化対策」に盛り込めば悩む必要はなくなります。そもそもこれらの政策は、各地の自治体がやむにやまれぬ住民要求として独自財源で行っているものです。国が国民生活の実態を考えずに思い付きで打ち出す政策より、余程国民の実感を反映したものです。少子化は子育てに自信が持てない若い世代が増えている結果です。子育て支援を国の責任で制度化させていきましょう。もちろん増税なしで。